

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	安城市中心市街地拠点整備事業・民間取組施設・複合施設種	階数	地上2F
建設地	愛知県安城市南朝浜第二土地区画整理事業地内第4街区第1号・第2号	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2016年7月1日
敷地面積	2,493 m ²	作成者	中村次郎
建築面積	2,092 m ²	確認日	2016年7月1日
延床面積	3,042 m ²	確認者	中村次郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>6.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>15.9 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	6.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	15.9 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	6.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	15.9 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>再利用レンガ(外構床)</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	再利用レンガ(外構床)
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	再利用レンガ(外構床)				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3.1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3.1 生物環境の保全と創出
④地域材の活用
Q-3.2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		隣地図書館と一体的な意匠と色合いとしている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		防犯カメラを各所に設置している。	5.0	0.50	-	-	3.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制								
			BPI _m =0.95	3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用								
				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
			BEI _m =0.82	4.0	1.00	-	-	4.0
			集合住宅以外の評価(3a.3b)	-	-	-	-	
			集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	
4 効率的運用								
			集合住宅以外の評価	3.0	1.00	-	-	3.0
			4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
			4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
			集合住宅の評価	-	-	-	-	
			4.1 モニタリング	3.0	-	-	-	
			4.2 運用管理体制	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
			1.1 節水	3.0	0.15	-	-	3.0
			1.2 雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.40	-	-	
			1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.60	-	-	
			2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-	
				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
			2.1 材料使用量の削減	2.4	0.63	-	-	2.4
			2.2 既存建築躯体等の継続使用	2.0	0.07	-	-	
			2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.24	-	-	
			2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.20	-	-	
			2.5 持続可能な森林から産出された木材	1.0	0.20	-	-	
			2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	0.05	-	-	
				3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
			3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.22	-	-	3.0
			3.2 フロン・ハロンの回避	3.0	0.32	-	-	
			1 消火剤	3.0	0.68	-	-	
			2 発泡剤(断熱材等)	-	-	-	-	
			3 冷媒	3.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
		①	ライフサイクルCO2概算値:83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮								
			2.1 大気汚染防止	2.5	0.33	-	-	2.5
			2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.25	-	-	
			2.3 地域インフラへの負荷抑制	2.0	0.50	-	-	
			1 雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
			2 汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
		独自	3 交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
		独自	4 廃棄物処理負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
				2.0	0.25	-	-	
			充分量の立体駐車場を敷地内に別棟で確保している。	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮								
			3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.33	-	-	3.0
			1 騒音	3.0	0.40	-	-	
			2 振動	3.0	0.50	-	-	
			3 悪臭	-	-	-	-	
			3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制	3.0	0.40	-	-	
			1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
			2 砂塵の抑制	3.0	0.30	-	-	
			3 日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
			3.3 光害の抑制	3.0	0.20	-	-	
			1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
			2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

安城市中心市街地拠点整備事業・民間収益施設・提案施設

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:6.7%/建物緑化:15.9%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	3.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	再利用レンガ(外構床)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 安城市中心市街地拠点整

計画上の配慮事項	
総合	隣接敷地の図書館ともつながる公共的な性格も持った建物であり、特に自由に利用できる屋上庭園が特徴となっている。 外観は図書館のレンガ調タイルに合わせた色合いとし、外構床も再利用レンガやそれに合わせたインターロッキングブロックの使用を予定している。
Q1 室内環境	音、熱、光、空気環境に関して、いずれも標準的な仕様としている。
Q2 サービス性能	階高4m以上として、余裕を持った計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺歩道と同じ再利用レンガを一部使用予定としている。 一部2階屋上部分を緑化し、来訪者の憩いを創出している。
LR1 エネルギー	エネルギーに関しては標準的な仕様としている。
LR2 資源・マテリアル	節水コマを採用する等、標準的な取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	駐車場・駐輪場の設置等、標準的な取り組みをしている。
その他	